

京葉線停電事故でJR東日本に警告書！

仕事総点検運動から「安全・安定」輸送の確立を

…国交省・関東運輸局→JR東日本に対し警告書を発する…



国労本部は8月21～22日、第77回定期全国大会を静岡県・伊東市で開催、総選挙真つ只中での開催という情勢もあり、今日までの到達点を踏まえた「不採用」問題の新政権発足後の取り組みをはじめ、組織の「強化・拡大」、JRの安全問題など集中した議論から当面する運動方針を確立しました。今号は、① JR東日本に発された「警告書」問題、② 広島で開催された原水爆禁止世界大会、③ 青年部交流会報告としました。以下報告とします。

7月30日、13時51分頃 故は、7時間もの長時間に発生した京葉線停電事 「東京～曾我」駅間の全線にわたって運転を見合わせ、上下170本に運休や遅れが発生し、乗客13万8千人に影響。この事故を重視した国土交通省・関東運輸局は、JR東日本に対し別掲の通り警告文書を発しました。

今回の事故の原因は、現在究明中ですが、新木場駅付近を走行していた車両に何らかのトラブルが発生し、その際、過大な電流が一気に越中島変電所に流れ、変電所のブレーキ力が溶損・火災につながった可能性も推定されています。

JR東日本に、昨年1年間に6回もの「警告文書」が国土交通省・関東運輸局から発せられ、そ

れを踏まえた、今年3月には『第5次安全5カ年計画―「安全ビジョン2013」を策定しました。しかし、別掲にある通り首都圏における輸送障害は半年間だけでも、車両関係のトラブル41件、信号関係のトラブル33件、人身事故274件にも及び、そして今回、またしても重大事故が発生してしまいました。

改めてJR東日本の安全輸送のあり方が根底から問われています。

今回の京葉線の問題を含め、事故の原因究明を早急に明らかにする中から「究極の安全」に向けた取り組みが求められています。

私たちは、真の「安全文化の創造」に向け、仕事総点検運動を強化するなかから、「安全・安定」輸送の確立を会社に求め、安心して働ける労働条件の確立につなげましょう！

【2009年1月～6月までの首都圏における輸送障害件数】

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 合計 |
|------|----|----|----|----|----|----|-----|
| 人身事故 | 35 | 26 | 21 | 26 | 30 | 21 | 159 |
| 接触事故 | 1 | 1 | 2 | 3 | 2 | 0 | 9 |
| 転落事故 | 0 | 0 | 0 | 2 | 3 | 0 | 5 |
| 車両故障 | 3 | 15 | 7 | 12 | 3 | 1 | 41 |
| 車両点検 | 0 | 1 | 17 | 12 | 15 | 7 | 52 |
| 信号故障 | 6 | 3 | 10 | 4 | 6 | 7 | 36 |
| 踏切事故 | 0 | 1 | 1 | 4 | 3 | 0 | 9 |
| 合計 | 45 | 47 | 58 | 63 | 62 | 36 | 311 |

東日本旅客鉄道株式会社
安全統括管理者 小縣 方樹 殿

関東運輸局
鉄道部長 中山 康二

鉄道安全第130号
平成21年7月31日

鉄道安全統括管理者 小縣 方樹 殿

関東運輸局
鉄道部長 中山 康二

鉄道の安全・安定輸送の確保について(警告)

鉄道の安全・安定輸送の確保については、機械あるごとに注意喚起してきたところであるが、平成21年7月30日、京葉線において帰宅ラッシュ時間帯を含む長時間にわたり輸送障害を発生させ、利用者に多大な影響を与えたことは、誠に遺憾である。

については、障害が発生した原因の究明を行い、再発防止対策を講ずるとともに、運転再開に長時間を要した原因の究明を行い、早期復旧のあり方を検討して必要な改善措置を講ずるよう厳重に警告する。

なお、講じた措置等については、文書により速やかに報告されたい。



(組合員の購読料は組合費に含まれます)

港区新橋5-15-5 交通ビル
国労東日本本部
発行責任者 伊藤秀樹
編集責任者 伊藤隆夫

No. 687 定価 20円

2009年 8月 31日

国労は 一人の困難を 皆で解決
第1回組織拡大標語 最優秀作品

被爆64周年

原水禁世界大会 広島大会に参加して

国労東日本本部
伊藤 秀樹



青森を4月9日「反核燃の日」として出発、5月15日には沖縄、さらには全国からの「非核平和行進」が8月4日に広島平和公園資料館前で合流、広島大会の会場（県立体育館大アリーナ）に向かつて行進が出発しました。

和ヒロシマ大会（県立体育館大アリーナ）には6500人が参加し、秋葉広島市長を始め多くの海外来賓からの挨拶、メッセージが紹介されました。特に、「折り鶴献納」には多くの参加者、団体から平和への願いを込めた折り鶴献納が行われ、大会参加者が核兵器根絶、平和への気持ちを一つにする事ができました。

8月5日は、広島大会分科・ひろば・フィールドワークが行われ、「ヒバクシャを生まない世界に（学習編）世界のヒバクシャとの現状と連帯のために」に運営委員として参加。原子

力、町内会の方々により管理されていることをお聞きし、改めて感謝と広島市民の原爆に対する思いに触れました。

最後に、国鉄ひろしまナツパーズと参加者全員が「機関車の歌」「原爆を許すまじ」を合唱して第37回国鉄原爆死没者慰霊式を終えました。

今回、広島大会、国鉄原爆死没者慰霊式に参加し、終戦から64年を経た今も原爆によって亡くなった方々、原爆死没者、ご遺族、被爆二世、在外被爆者が今も苦しみ、多くの課題が解決されていない現実を学びました。

被爆国である日本政府は、被爆者援護法は制定されているものの、問題を多く残している中、北朝鮮核実験を前面に出し「非核三原則」の見直しや核の平和利用、CO₂の削減を標榜した原子力発電所の拡大など、被爆国としての核・原発のもつ危険性に対する反省のないまま突き進んできた自民党に対し心の底から怒りをおぼえています。

8月6日は、国鉄労働組合原爆被爆者対策協議会（以下、国労被対協）が主催の第37回国鉄原爆死没者慰霊式に参加してきました。慰霊式は国労被対協を代表し国労西日本本部田中守委員長の追悼の辞、各団体（JR西日本、JR貨物、JRバス、西労組）からの献花が行われました。今年も1名の死没者名簿への記帳報告と奉納が行われ、終戦64年を経た今も戦争が終わっていない現実を直接肌で感じるとともに、国鉄原爆慰霊碑のある公園がきれいに管理されてお



今年例年になく異常気象でしたが、両日共に雨天は避けることができ、阿字ヶ浦海岸の海水浴を満喫しました。

ところで、今回乗車したひたちなか海浜鉄道は、国鉄型気動車が今なお現役で活躍する、全長143キロの小さな鉄道です。日中の乗降客は少ないものの、地元の重要な足として、町をあげて存続運動を展開しています。

夕方からはバーベキュー交流会。青年部長の乾杯の挨拶に続き、地元水戸地本から、佐藤委員長をはじめ執行委員がかけつけてくださり、国鉄闘争の現状について話をされ、共に組織拡大に全力をあげていこうと青年部に激励をいただきました。

食事のあとは、日頃なかなか会えない仲間との

医療の進化にあわせて、アフラックのいちばん新しい「がん保険」です。

アフラックのがん保険

アベニール 株式会社
TEL 03-3437-6810
FAX 03-3437-6822

「生きる」を創る。
Affac
アフラック (AFRIL) アフラック生命保険株式会社
東京第二法人営業部
〒163-0456 新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル
Tel.03-3344-1458 Fax.03-3344-4036
〒106-0004 港区新橋5-15-5 交通ビル3F
資料請求いただいたお客様の個人情報利用目的は、アフラックの各種商品やサービスの案内・提供・維持管理となります。
©詳しくは、「パンフレット（契約概要）」や「ご契約のしおり・約款」をご覧ください。 AP104-0008-0104 4月14日版

職場での話題や新たに加入した若い仲間との交流など話が尽きることなく、夜も更けていきました。

翌日は、全員で記念撮影をし、来年もまた元気で、新しい仲間をひき連れて交流会に参加しようという団結を固めあいました。けが人もなく交流会を終了し、無事大成功に終わりました。

青年部の夏季交流会にあたり、共闘の江ノ電労組青年部のみなさん、水戸地本執行部のみなさんたいへんありがとうございました。また、残念ながら今回勤務などで参加できなかった青年部の仲間も来年はぜひ参加してほしいとおもいます。